

岩槻新校準備委員会（第1回）議事録

日 時 令和5年1月16日（月）10:00～11:40

会 場 県立岩槻高等学校会議室

出席委員 臼倉委員長・関根副委員長・竹本副委員長・鴨志田委員・田中委員
 渋谷委員・渡邊委員・手島委員・井上委員・真中委員・佐藤委員

協 議 「岩槻新校基本計画検討（案）」について

○ 主な意見・質問・回答

No.	主な意見・質問・回答
1	<p>「国際に関する学科」の設置とあるが、現在、埼玉県には「外国語科」がある。「国際に関する学科」と「外国語科」の違いは何か。</p> <p>（回答）</p> <p>現在、埼玉県には7つの県立高校に「外国語科」があるが、全国的にみると、「国際科」や「国際教養科」など国際に関する名前がつく学科が増えている。変化の著しいグローバルな時代を切り拓くためには、自国の伝統・文化について理解を深めるとともに、他国の価値観を尊重する態度を身に付けることが重要である。そのためには、語学力の育成に加え、地球規模の諸課題について深く掘り下げて探究し、積極的に発信していく能力の育成が必要だと考えている。外国語だけでなく、教科横断型の学びに発展させていくようなイメージを抱いている。</p>
2	<p>小中高の連携という観点から、小中学校で学んできたことを高校で深めていくということも大事である。</p> <p>また、岩槻は同じさいたま市の中でも浦和や大宮などと歴史や地場産業等が異なる。新しい産業も発展してきている。</p> <p>市内の小中学校の取組との継続性、岩槻地域の独自性を踏まえてほしい。</p>
3	<p>大学生が留学生や外国の方と話をするとき、相手の話は理解できるが、自国や自分の住んでいる地域について伝えられないことがある。自国や地域をもっと知り、海外との交流や留学に繋げることが重要ではないか。外国語や外国の文化を学ぶことも大事だが、自国のことを学ぶことも大切である。</p>
4	<p>高校と大学の連携を進めて行く必要がある。生徒はもちろん、教員同士でも交流を図れると良い。</p>
5	<p>「誰もが入学したくなる学校」、「この学校で学んで良かったと思える学校」、「この学校を卒業して良かったと思える学校」であると、卒業生も在校生も誇り</p>

	が持てるのではないか。
6	英語に偏らず、多言語が学べる学校になると良い。母国語が様々な生徒も学べる学校であり、学んだことを実践する体験活動等ができる学校にしてもらいたい。学んだことを活用し、交流を進め、国際感覚を身に付けた生徒を育成してもらいたい。
7	新校では「実践的なグローバル人材」を育成する必要があると感じている。語学力を身に付ける、英語が話せるということは当たり前になっていないといけない。日常的に語学を使いこなせる教育を学校でやってほしい。それにプラスアルファが必要である。そのためには、学生のうちからどんどん海外に出ていく機会があったほうが良い。
8	地域との協働については、地域の工業団地の企業とうまく連携できると良い。良いヒントが得られるのではないか。
9	新校では自国の伝統・文化を学ぶとともに、地域と連携する機会や、企業と交流する機会があると思う。多様な進路選択ができることを発信することで、保護者の関心が高まるのではないか。
10	日本人の留学生は自国について十分に勉強していないと感じる。自国の伝統・文化や国際感覚といった点について興味を持たせるためにも、留学制度や交流の機会を活用していくのが良い。
11	ICTを活用した教育活動について、各校ではどのような取組をしているのか。 <p>(回答)</p> <p>岩槻高校では、各教室に設置されたプロジェクタや生徒用PCを授業等で積極的に活用し、授業改善に努めている。令和5年度の1年生から一人一台タブレットを導入する予定であり、ICTを活用した効果的な教育活動について検討している。</p> <p>岩槻北陵高校では、民間の自主学習アプリを活用し、生徒の学習や教育相談に活用している。また、協調学習やグループワークの中で、学習支援ツールを活用し、PC上で付箋を貼って生徒同士が共有、意見交換できる取組を行っている。</p>
12	目的意識をもって、入学した生徒が最後までしっかり学べるように、生徒指導をして欲しい。子供に寄り添った指導、不安定な年代の子供たちが安心して学べる学校という観点が重要だと思う。自己肯定感や自己有用感を高め、社会に貢献できる人間を育成してほしい。送り出す中学校と連携を図り、入学して良かったと思える学校になるよう、生徒指導においても配慮してほしい。
13	「進路指導の具現化」の中に「多様な人材との交流」と記載しているが、大学等に限らず社会人や地元の方々などと幅広く交流していきたい。
14	効果的な生徒募集を行うには、生徒を送る側と受け入れる側が連携しながら進めていくことが重要である。
15	まだ開校していない学校の募集となるため、子供たちが進路を考える際に、「何ができるのか」「どういうふうに自分を生かせるのか」をはっきり分かるよ

	<p>うに打ち出していく必要がある。この学校に行けば何ができるということを中心に大きくアピールすれば、中学校側も指導しやすい。</p> <p>入学したら分かるのではなく、入学前、募集の段階から、既存の学校との違いがはっきりと分かるようアピールすると良い。</p>
16	<p>地域企業と触れ合う機会として、中学生が企業に出向き、働いている人にインタビューをした動画をインターネットで公開する取組がある。こうした取組を参考に、地域との触れ合いをマスメディアで取り上げてもらえれば、広報活動にも有効だと思う。</p>
17	<p>若いうちからSDGsの観点を踏まえることは大事である。「人づくり」、「地域とのつながり」もSDGsの大事な要素。また、DXもこれからの社会では避けて通れない。</p>